

「話し合い方シート」を用いて 少数数での交流を活発化

香川県綾川町立滝宮小学校

綾川町立滝宮小学校は、思考力・判断力・表現力などをベースとする「確かな学び」を育む手段として言語活動を重視。各教科に少数数での「交流」活動を取り入れるなどして言語活動の充実を図る。一人ひとりの子どもが主体的に授業に参加し、活動を通じて考える力を身に付けている。

課題

- 自分の考えを明確にして書いてまとめる力は付いてきたが、自分の考えを深めるまでには至っていなかった
- 相手の気持ちを考えずに発した言葉などから人間関係が悪化することがあった

研究のねらい

- 子どもが考えを深められる活動の手立てを検討
- 活動を通じて、友だちを尊重し、円滑にコミュニケーションを取れる人間関係をつくる

実践

- 考えを交流する過程で、ペアやグループでの活動を取り入れ、すべての子どもが考える場を設ける
- 「話し合い方シート」（話型）などで「交流」における話し合いの活発化を図る

成果

- 全員が活動に参加し、一人ひとりの子どもが課題に向かって自ら考えるようになった
- 「話型」を基にすることで、授業で適切な話し方に沿う交流が活発になった

S c h o o l D a t a

◎1872（明治5）年開校。高松市内へは車で30分ほど。健康や体力づくりにも力を入れる。2009年度には香川県の「言語活動の充実促進モデル事業」の指定を受け、研究を続ける。



校長 西浦雅弘先生

児童数 311人 学級数 15学級（うち特別支援学級3）

所在地 〒761-2305 香川県綾歌郡綾川町滝宮1095-1

TEL 087-876-1183

URL <http://www.town.ayagawa.kagawa.jp/ed/takinomiya-e/>

公開研究会 2010年11月17日

何のため？ 各教科での言語活動

◎課題と研究のねらい

思考を深めるために 考えを評価される場が必要

滝宮小学校では、「確かな学びをつくる児童の育成」を目指している。西浦雅弘校長は次のように話す。

「『確かな学びをつくる児童』とは、学び続けようとする児童、自ら課題を見つけ、判断したり、より良く問題を解決したりしようとする児童、新しい知を創造しようとし、自分の成長を自覚できる児童です。言語活動の充実が最終的な目標ではありません。言語活動を通して言語力を高める中で、『確かな学び』につながる思考力・判断力・表現力を育てたいと考えています」

言語活動はこれまでも行ってきたことであり、思考力・判断力・表現力を育てる唯一の方法ではないが、『確かな学び』にもつながる感情や情緒、コミュニケーション能力を培うという意味でも必要なことだと位置づける。香川県の「言語活動の充実促進モデル事業」の指定を受けた2009年度に、改めて全教科で言語活動について考えた。研究主任の井手上典弘先生は次のように話す。

「『言語活動とは何か』を話し合うことから始めました。最初は、国語以外の教科の言語活動をイメージしにくいという教師もいまし

たが、『国語で学んだ情報のまとめ方は、社会の新聞作りに生かせる』など、国語と各教科の関連も確認しながら考えていきました」

まず、全教科で重点を置いたのは、「書いてまとめる」作業を通して自分の考えを明確にすることだ。発表やグループでの話し合いをするためには、自分の考えを持つ必要があり、そのためには「書く」ことが有効だと考えたのだ。どの授業にも最後にまとめを書く時間を設けた結果、子どもたちの姿が変化してきたという。

「最初は『楽しかった』『面白かった』といった感想が目立ちましたが、次第に授業ごとの課題に照らし合わせて自分の考えを書くようになりました。『書く』ことが好きになった』と言う子どもも増えました」（西浦校長）

しかし、書く力は伸びたのだが、書くことで自分の考えが完結してしまい、それ以上に考えは深まらなかつた。教務主任の谷口基生は次のように説明する。

「自分の考えを表現して評価される場がなければ、思考は深まりません。友だちから賛成されて自信を持ったり、反対されて考え直したりする体験を通して、思考力・判断力・表現力が育つのではないかと考えました」

研究を進める上でも、どこかに焦点化をした方が深まりが出ると考えていたこともあり、10年度は、ペアやグループでの『交流』の場面に研究の重点を移した。そこでは、コ

ミュニケーション能力の育成も重視する。

「本校の児童は周囲とかかわるのは好きですが、例えば、友だちに指摘する際、『やめようよ』と言わずに、『やめるよ』などと感情むき出しの言葉を発し、衝突するような場面も見られました。交流を通して互いの考えを尊重し合う関係を育てて、温かい人間関係をつくりたいと考えています」（谷口先生）

◎実践

全員が参加しやすい ペア、グループでの交流

各教科の授業は、基本的に「課題をつかむ」「考えをもつ」「交流する」「まとめる」の学



滝宮町立滝宮小学校校長
西浦雅弘 Nishihara Masahiro
「何より先に子どものことを考える。『是々非々』の考えの下、子どもにとって良いことか悪いことかを常に考えたい」



滝宮町立滝宮小学校
教務主任、5学年担任。「日々の何げない習慣やリズムを大切にすることで、子どもが自律・自立する力を育てたい」



滝宮町立滝宮小学校
研究主任、4学年担任。「自分の心に花を咲かせ、相手の心の花に気づく人になってほしい」

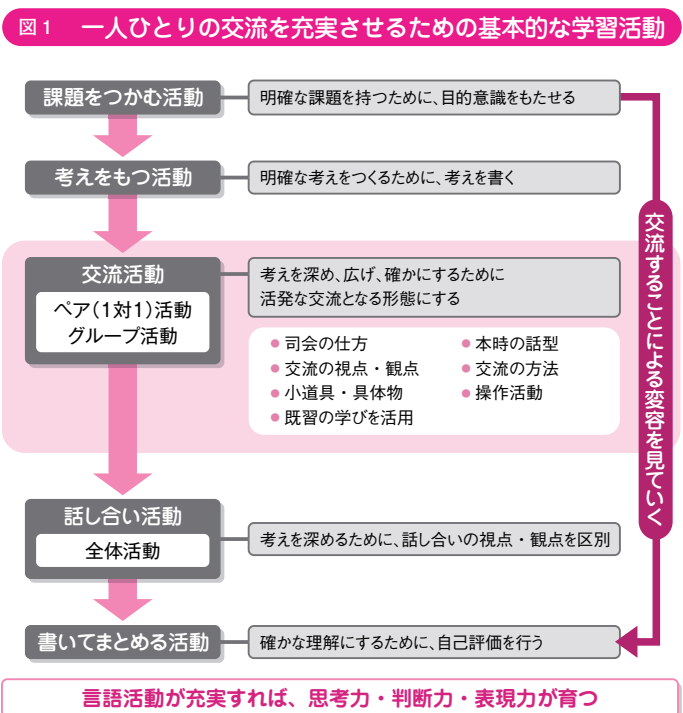
習過程で構成されている(図1)。

まず、問題を提起して課題意識を持たせる。教師が一方的に提示するのではなく、例えば、算数で概念的な問題を扱う場合は、具体物を操作する作業などを取り入れ、「なぜだろう?」という気持ち自然にわくように工夫する。研究授業として行われた5年生の算数「三角形・四角形の角」の授業(P.24)では、実際に三角形の角度を測る作業を通して課題意識を深めた。

次に一人ひとりがノートに予想を書き、自分の考えを明確にする。これにより、授業の見通しを持ち、「友だちがどう考えたかを知りたい」という気持ちも生まれ、交流が活発化する。更に一人ひとりの考えを深めるために、10年度から、1・2年生はペア、3年生以降は3、4人のグループでの話し合いを中心とした交流活動を取り入れた。

「クラス全体での話し合いでは、押し黙ったり、自分だけ話したりする子どもがいて、全員が参加する雰囲気にはなりにくい状況でした。そこで、クラス全体で話し合う前に少人数の話し合いの場を設けるようにしました」(井手上先生)

子どもは交流を通して、自分の考えに自信を持つたり、修正したりして考えを深めていく。この後は各グループの考えを集約し、クラス全体の話し合いにつなげる。今回の研究授業では、話し合いによってグループの意見



「話し合い方シート」で交流の活発化を図る

をまとめ、画用紙に記入。発表者がクラス全体に向けて発表した。そして授業の最後に、一人ひとりがノートにまとめを記入する。

もう一つ、交流を活発にするために活用しているのが「話し合い方シート」だ(図2)。

これは、言葉遣いや話し合いの流れを型にしたものだ。例えば、意見を出し合う時は、司会者が「○○さん、わかったことを言ってください」と順番に声を掛ける。質問時は「○○さんどうぞ」「○○さんのかわりに答えら

れる人はいませんか」と問い掛けるように示されている。現在、各クラスで試し、発達段階や授業内容に応じて使用する「ひな型」の作成を進めている。

「何もない状態で話し合いを始めると、『最初に誰が発言するか』と困ったり、他の子どもの話をささげたり発言したり、乱暴な言い方になってしまったりして交流がスムーズに進みません。ルールを定めて『フォーマル』な話し合いにすることで、場をわきまえて『イン

フォーマル』な言葉を出さずに意見を聞き合う気持ちが生まれます」(谷口先生)

司会・書記・発表係は、事前に子ども同士で決めておく。

◎成果

活動を通じて帰納的な考え方を身に付ける

算数で言語活動を取り入れる先には、思考力の育成がある。授業では、グループごとに異なる多様な三角形を作成し、角度の測り方

何のため？ 各教科での言語活動

図2 「話し合い方シート」

今日の授業で使用するグループでの話し合い方
 おたからが気持ちよく意見を述べ合ったり、意見し合ったりの話し合い方
 (これを参考に、自分で決めた話し合い方を決めよう。)

グループで話し合うときの司会のことば

① 例を話し合うかきき
 必ず確認する
 今から、〇〇について話し合います。(発表します。)
 発表する〇〇です。協力をお願いします。

② 一人ひとりの意見を
 言う。
 〇〇さん、わかったことを書いてください。(順番に当てていく。)
 わたしは、〇〇について調べました。〇〇の方法で調べました。
 そうすると、〇〇ということがわかりました。
 〇〇についてはまだわかりません。

③ 質問をたずねる
 質問があればぜひ聞いてください。
 〇〇さんどうぞ。
 今の質問について、〇〇さんか教えてください。
 (質問し終わったら)
 〇〇さんのかわりに答えられる人はいますか。
 (はなも答えるかながら)
 では、全体の話し合いで、学級のみんなに伝えてもらいましょう。

④ グループの考え
 をまとめる
 みんなの意見をまとめて〇〇〇〇ということになります。それで
 いいですか、
 それでは、これをわたしたちのグループの意見として発表します。

⑤ お礼
 みんなの考えがよくなりました。とても役に立ちました。ありがとうございます。これ
 でグループの話し合いを終わります。(拍手)

交流の成果を全体に発表するとき

わたしたちのグループは、〇〇グループです。
 話し合った結果、「〇〇〇〇」という意見にまとまりました。
 でも、〇〇について質問があり、たれも答えられなかったら、こたえられる人が
 いたらお願いします。
 以上で〇〇グループの発表を終わります。



上記のシートは、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロードできます

<http://benesse.jp/berd/>
 →HOME>情報誌ライブラリ(小学校向け)

力して課題解決に向かう学習が出来ていまして、クラス全体としてだけでなく、一人ひとりの子どもにとつて良い授業だったと感じました」(西浦校長)

更に、交流を中心とした言語活動は、学習だけでなく、日常生活にも良い影響があるという。谷口先生は、言語活動が子どものコミュニケーション能力にもたらす効果を次のように説明する。

も複数提示した。これには、出来るだけ多くのデータを集めて帰納的に考える方法を身に付けるねらいがある。

「自分が作った三角形だけを見るのではなく、グループやクラスでの交流を通して、三角形の形や測り方が異なっても180度になると理解させるのがねらいです。この体験で、多くの事象から普遍的な事実を導き出す、帰納的な考え方を実感しながら理解できます。また、自分の体験から考えたことを大切にすることも必要です」(谷口先生)

例えば、あるグループに、最後まで「どうしても180度にならない。納得できない」と主張する子どもがいた。これは、分度器で鋭角の角を測る際の誤差によるものだったが、自分の経験を基に考えを進めた結果である。更に、クラス全体への発表を通して、こ

の主張は誤差という概念を教えることに生かされた。

このように、「自分の発言が生かされた」「皆に認められた」という実感は自信となり、「また発言したい」という気持ちが芽生える。その気持ちが授業への意欲を高め、より多くの子どもが積極的に学び合いに参加するという循環が生まれていく。

同校は、話す、聞く、書く、読むといったあらゆる場面が言語活動だと考えている。しかし、一斉授業では、分かる子どもだけが積極的になり、言語活動が十分に深まりにくい。その点、どの子どもにも発言の機会が与えられる少人数での交流が持つ意義は大きい。

「研究授業でも、すべての子どもが『お客さん』にならずに参加し、他の子どもと協力して課題解決に向かう学習が出来ていまして、クラス全体としてだけでなく、一人ひとりの子どもにとつて良い授業だったと感じました」(西浦校長)

更に、交流を中心とした言語活動は、学習だけでなく、日常生活にも良い影響があるという。谷口先生は、言語活動が子どものコミュニケーション能力にもたらす効果を次のように説明する。

西浦校長が重視する

校長としての役割

子どもにとつても先生方にとつても楽しい学校をつくるのが、校長の役割と考えています。そのために教師のチーム力を大切に、互いの不足を補い合いながら1+1=2以上になるような、先生方一人ひとりがかわって、成果を実感できるような組織づくりを心掛けています。

学校が一丸となるには、先生方が共通した目標を持つことも大切です。研究の目的、内容、方法等を分かりやすくしたり、研究会では成果と課題を明確にしたりして、全員で共通理解を図ることを大切にしています。

「自分の考えを口に出すのは勇気のいることです。『黙っていれば失敗しない』と危険を避けようとしても不思議ではありません。しかし、だからこそ一人ひとりの発言が求められる言語活動の場を授業に設けることが必要です。そのような状況に置かれたら、子どもは『どうしたら良いのか』という切実な課題を感じるでしょう。それを乗り越え、勇気を出して発言することで、コミュニケーション能力は育つていくと思います」

言語活動の充実を図る研究は、全教師が参加する研究会で推進されている。次ページから、研究授業と事後研究会の様子を紹介する。

5年生 言語活動を取り入れた算数の授業

単元名「三角形・四角形の角」

授業者 谷口 基先生

児童数 27人

ねらい

三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを帰納的に結論づけて理解する。前時の授業で、ある三角形では 180° になることを確認したが、「一つの例だけで言えるのだろうか」という疑問が残っていた。少人数グループ、およびクラス全体での交流を通して、さまざまな形の三角形が上記の仮説に当てはまるかどうかを確かめ、結論づけて、きまりを理解する。

	時間	学習活動	教師の手立て・工夫・成果
課題をつかむ	0分	【1】前時の振り返りと本時のめあての確認 ◎前時の振り返り 前時の最後に疑問として残ったことを思い出し、本時のめあてを確認する	<ul style="list-style-type: none"> 一つの例では、きまりとは言えないのではないかと疑問を再確認する ▶前時からの学習の連続性が意識される
	めあて：どんな三角形でも三つの角の和が180°になると言ってよいのかどうか調べよう		
考えをもつ	3分	◎予想を聞く 予想と共に、 180° に「なる」「ならない」のそれぞれの理由を述べる。この段階では、「ならない」が半数以上を占めた	<ul style="list-style-type: none"> 「なる」「ならない」の双方の理由を発表させる ▶「ならない」という予想も全体に広げることで、課題意識が全員のものとなる
	9分	【2】三角形の種類別グループで確かめる 言語活動 ◎個人作業で確かめる トレーシングペーパーに三角形を描いて切り取り、いろいろな方法で角度を確かめる	<ul style="list-style-type: none"> 「正三角形」「二等辺三角形」「平べった三角形」「つる三角形」など、グループごとに形の異なる三角形を扱う。グループ内では「分度器法」「破りくっつけ法」「折り折り法」と、一人ひとりが異なる方法で角度を測る ▶一般的な三角形のイメージと異なる形があることで、「180°になりそう」という先入観を防ぐ。調べ方を変えることで、どの方法でも180°になることを確認でき、帰納的に結論づけられるようになる 「学習シート」に結果を書く時は、予想通りだったか、異なつたかを踏まえて書くように指示 ▶自分の考えの変化を明確に意識できる
交流する	19分	◎結果をグループ内でまとめる 1グループ3、4人で、同種類の三角形について、異なる方法で角度を測った結果を話し合う。グループの考えとして画用紙にまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合い方シート」を使用する ▶シートの流れに沿って話し合いの流れや言葉遣いをルール化することで、すべての子どもが発言でき、話し合いが進む グループの考えを画用紙にまとめる ▶書く過程で思考を整理できると共に、まとめる過程での交流が生まれる
	37分	【3】三角形の三つの角の和のきまりについて、その確かさを全体で話し合う 言語活動 ◎全体で発表 各グループの発表係が前に出て、異なる種類の三角形の結果を発表し合う	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表係がグループの考えを発表 ▶発表の仕方、話の聞き方を身に付けられる 各グループの画用紙を黒板に並べて掲示 ▶各グループの結果を一覧することで、形が異なっても180°になることを理解できる
まとめる	50分	【4】本時の学習を振り返る ◎ノートにまとめを書き、数人が発表 最後に「きまり」の成立に納得しきれない子どもに発表させた 児童A「測りやすい三角形は 180° になることが分かりました。でも、測りにくい三角形については分かりませんでした。まだ納得できていません」 児童B「すべての三角形が 180° になることが分かりました。小さい三角形は測りにくいことが分かりました」	<ul style="list-style-type: none"> あえて全体としてのまとめを示さず、個々の考えでまとめを書くようにする ▶自分の考えを大切にできる 結果に納得していない子どものまとめを発表させた ▶この考えを認めることで、操作活動を通じて自分が出した結果を基に、帰納的に考える大切さを伝えられる

*同校の指導案資料を基に編集部で作成

何のため？ 各教科での言語活動

授業後の研究会

研究授業の後は、全教師が参加して研究会を行う。3年生と5年生の研究授業を行ったこの日は、1～3年生の教師が3年生、4～6年生の教師が5年生の授業について検討した後、全体で話し合いの内容を共有した。

研究会の流れ

1 授業者からの説明

授業のねらい、思い通りに展開したことや意図していなかったことなどを説明

2 質疑応答

不明な点などについて、授業者に質問

3 学年ごとのグループに分かれて討論

学年ごとに三つのグループに分かれて、20分間ほど討論。良かった点はピンク色、改善が望まれる点は青色の付箋紙に記入して画用紙に貼り、全体で共有したいことを整理



4 各グループからの発表

検討した内容を発表。各グループが5分間ほどでポイントを絞って意見を言う。続いて、指摘を受けて、授業者が感じたことなどを説明



5 低学年と高学年が合流

それぞれ話し合ったポイントを簡潔に説明し合う。付箋紙が貼られた画用紙も共有

6 指導主事の先生による講評

指導主事の先生からの指導、講評を聞く

研究会で出た意見

◎良かった点

- 「話し合い方シート」(話型)によってスムーズに話し合っていることに驚いた。伝えたい内容を話す際の補助になっている。
- 交流ではしっかり話し合いが出来ており、三角形の角の和が180°になることを確認し合っていた。
- 180°にならなかった子どもの三角形を別の子どもが異なる方法で測り直したり、つまづいている子どもにアドバイスをしたり、グループ内で協力して学習を進める姿勢が多く見られた。
- 自分の考えをノートに書く力が付いている。論理的に結果を予想する力も高まっていると感じた。
- 「予想と関係つけて結果を書くように」という教師の助言により、言語活動が促されていた。
- 自分でつくった三角形なので一生懸命に取り組んでいた。
- 子どもの考えの中から課題設定を行っているため、強い課題意識を持って取り組んでいた。

◎改善点

- 交流の意義が伝わってきたが、発表の準備をするまでに少し時間がかなり過ぎかもしれない。画用紙に書き込む作業に慣れていない子どもも

いるので、小黒板を使っても良いのではないかな。

- ほぼすべての子どもが180°になることを理解できていたようだが、より実感を持って理解させるために、最後に一覧表のようなものを作っても良いかもしれない。
 - 話し合いの型があることでスムーズに交流できたが、一方では縛られてしまう面もありそうだ。型の使い方については、更なる検討が必要だと感じる。
- ◎谷口先生より
- 授業以外の場では、感情むき出しの言葉が見られるが、「話し合い方シート」を用いて、「フォーマル」な話し合いの場にしたことで、感情的な言葉はあまり出なかった。まだ「話し合い方シート」に慣れていない子どもも多いため、今後、実践を重ねていきたい。
 - 画用紙にまとめる過程で、「この言葉も必要ではないか」などと、交流が生まれて思考が深まる効果をねらっており、実際、その通りになった。ただし、確かに、グループごとの画用紙への記入は時間がかかった。ペンの色や装飾など、学習とは無関係なことにこだわって時間がかかってしまった点については改善の余地がある。

研究会告知

2010年11月17日に公開研究発表会が実施されます。言語活動の充実をテーマとして、2年生(国語)、3年生(音楽)、4年生(算数)、6年生(総合的な学習の時間)の授業が公開される予定です。詳細(二次案内)は10月頃に滝宮小学校のウェブサイトに掲載されます。